

味もあり、反面、いざ一人一人について書こうと思っても、細かいプレイが頭に浮んでこない人が多く、いかに私自身が気をつけてみていないかがわかり、それらの反省にもなりました。

少しわき道へそれてしまいました。話をもとにもどして、いろいろなチームと練習試合をした結果、とにかく杉野は得点能力が少ないという感じを強く抱きました。特に50点以上入れられた試合では必ずといってよい程敗けており、勝つためには相手チームを50点以内におさえるディフェンスを造り出さなければと思いました。そして、それが結果と



してオール・コート・プレスディフェンスになったわけですが、最初の練習目的は、簡単にボールを持たせないディフェンス、持たせてしまった時には、ボールを早く運ばせないディフェンス、即ち、速攻を出させない、時間をかけて攻めさせるディフェンスの完成でした。

しかし、個々のディフェンス能力からみると、とても1対1では守りきれないので、マンツーマンをきけて、3・2のゾーンプレスにして、基礎練習では一人がドリブルで抜かれても次から次へと助けに行く味を覚えさせるような3対3を練習しました。このディフェンスを主にした練習は夏の合宿の終りまで続づき、オフェンスの練習までは手が回りませんでした。しかし、このディフェンスではどうも助けられることばかりが強く出て、少しでも長く抵抗し

て次の人に渡してやる、責任感の強いディフェンスには程遠くなり、一人がサボるとがたがたになってしまいう悪い欠点が目立ってきました。そして、いろいろ考えた結果、選手達的能力、体力は目にみえて強くなってきたので、思いきってマンツーマンにディフェンスを変えてみました。このプレスを、見境いなしのディフェンスと名づけて、自分の一番近くにいる相手をすばやくキャッチしてディフェンスするもので、これは私の目的である「楽にボールを持たせないディフェンス」に近づく為の一段階になりました。というのは普通のマンツーマンプレスでは、相手を

きめてあるので、その人をさがしている間に、速攻を出されたり、楽なパスを入れられたりされがちで、(能力があれば別ですが)これを修正する為にパスがきそうなところ、ボールのそばなどからディフェンスをしていこうという考え方からなのです。

そして、次にコート全体を第1エリア、第2エリア、第3エリアとわけて考え、特に第2エリアの部分のディフェンスを強化しました。その理由はどのチームもこの部分からいろいろなチームプレイがはじまっているからで、ここを楽な状態でプレイさせなければペースをくずせるのではないかと考えたからです。

又、マンツーマンの激しいプレスにはなれているチームもあると考えたので、第3エリアに入ってから、2・3ゾーン、3・2ゾーンに変え

る練習もしました。しかし、この変える時期がなかなかうまくつかめず、練習に於ても変わる瞬間にうまくせめこまれたりしました。それは5人の気持ちがバラバラにきりかわる為で、一つのヒントでだいぶよくなりました。

他方、オフェンスですが、ディフェンスの練習に時間を取られてなかなかおもうようにいきませんでした。いろいろな動きからのシュート練習をしていたのでその動きからのフォーメーションプレイを考えました。そして「静」からのプレイを根本にした為、ストップ・オフェンスと名づけました。これは、最初に述べたように、他のチームが研究していないだろう、練習していないだろうという考えからで、とにかく静止している状態の多いオフェンス、フォーメーションなのです。この他にも、広く攻める為のフォーメーション、そして広くしておいてからのカットインプレイ等、いろいろ攻め方の感じが違うものを練習しました。

そして、ゲームの運び方は、速攻をとめ、ゆっくり攻めさせるディフェンスを根本に、プレス=速攻という考え方もやめて、オフェンスは相手をじらす程、ゆっくり攻めることを主眼にリーグ戦を向えた訳です。

結果は、第1戦に日体とあたり、この、ストップ・オフェンスと、見境いなしのディフェンスとがうまくみ合い、日体のあせりを引き出すことに成功して1勝することが出来ました。

その後は皆様ご存知の通りですが、6勝4敗という勝率で2位になることが出来ました。

これからは、4年制、体育系大学等がいよいよ強く成長してくることを考える時、2年制、服飾の大学というハンデをおっている杉野がどうそれに対しよしていかななくてはならないか、もっと私自身考え、対策を練らなければいけないと思います。